

## モニタリングシート（院・史学専攻）

No.	モニタリング項目	データ	データから見る点検結果（概要）	課題	改善へのアクション
1	前年度の向上・改善施策の実施状況（成果・課題・継続事項）はどのような状況であるか。	点検・評価課題に対する向上・改善施策	前年度自己点検・評価結果を踏まえて、在学生向けの入試説明会を開催した。引き続き、FD研修などによる向上・改善策を進める。	特になし。	学科が指摘されていた教員構成の改善について、来年度新規採用人事において学科との連携を強化することで、定員充足率の向上を図る。
2	定員充足の状況はどのような状況か。	定員充足率データ	日本史・東洋史・西洋史各コースにおける学部学生の研究状況を把握した上で、大学院での研究についての広報活動を進めていく。	博士前期課程・後期課程ともに、毎年一定数の志願者を確保できているが、入学（進学）者数は年度による差が激しいので、より安定した確保の必要がある。	各コースやゼミにおいて、本学大学院の特徴や利点について、情報提供・宣伝する機会を設ける。学部1, 2回生をも対象に含めて大学院説明会を実施する。
3	DP・CPと関連したカリキュラムが適切に設計されているか。	履修要項等の各種データ	該当せず。（DP・CP未策定のため）	該当せず。（DP・CP未策定のため）	該当せず。（DP・CP未策定のため）
4	DPに沿って設定された各学位プログラムレベルにおけるカリキュラムについて、適切に実施されているか。	・履修状況等の各種データ ・大学院アンケート結果	該当せず。（DP未策定のため）	該当せず。（DP未策定のため）	該当せず。（DP未策定のため）
5	学修成果の到達度の把握はどのようにおこなっているか。	学修成果の把握の取り組み等 大学院アンケート結果	春期・秋季の卒論発表会や研究例会、修士論文中間発表会、さらに大学院アンケート結果や学生との個別面談を通じて、今後も把握していく。	特になし。	特になし。
6	各科目の成績および論文・研究が適切に評価されているか。	・成績評価に関する取り組み ・大学院アンケート結果	授業における学生の反応、大学院アンケート結果を参考にしつつ、修士論文口頭試問や研究計画審査などにより、今後も適切に評価していく。	特になし。	特になし。

No.	モニタリング項目	データ	データから見る点検結果（概要）	課題	改善へのアクション
7	職位構成・年齢構成のバランス、非常勤比率に留意し、かつカリキュラムに基づく教員組織となっているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属教員の状況</li> <li>・科目群別非常勤比率</li> </ul>	大学院生指導に支障のない範囲で、職位・年齢・性別について偏りのない教員組織編成を実現するよう引き続き努める。日本史・東洋史・西洋史各領域ともに、古代史から近現代史まで各時代を専門とする教員を満遍なく配置しており、カリキュラムと整合した教員組織になっている。専門科目における非常勤講師比率は年々低下しているが、そもそも他専攻と比べても高くはない。	現状の教員組織においては女性比率が低く、また年齢構成が40歳代後半以降に偏っている。この2点は学科と連携して改善していく必要がある。	左記の教員構成の問題について、学科と連携し、来年度 新規採用人事を通じて改善を図る。
8	課題認識および外部環境を踏まえた独自のFD活動を実施できているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FDの取り組み状況</li> <li>・前年度点検シート</li> <li>・点検・評価課題に対する向上・改善施策</li> </ul>	学部教育に関するFD会議の後、大学院担当教員の間で、院生全体の履修状況や進路等の動態について情報を共有し、日本史・東洋史・西洋史の各領域内でも意見交換を行うというFD活動を行っており、引き続き実施していく。	水曜 4・5 講時に全学規模の研修や会議、あるいは学科会議が開催されることが多く、大学院に特化したFD活動のために十分な時間を確保するのが難しい。	検討すべき課題の事前精査によって、FD活動自体で取り上げる課題を選別し、効率的な運用を目指す。
9	上記以外で「継続すること」「課題」「次へのアクション」「全学レベルで検討すべき事項（提案）」があれば入力。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種データ</li> </ul>	特になし。	特になし。	特になし。